

ほ育牛の管理方法

ほ育牛が搾乳牛になった時に稼げる牛であるためには、病気になるず、健康に育つ必要があります。

ほ乳期の管理を今一度確認してみましょう。

1 初乳で免疫ゲット！

病気に対する免疫を持たずに生まれてくる子牛には、早く充分な量の初乳を飲ませることが重要です。良質な初乳はチャック付き袋などに入れ、冷凍保存すると便利です。利用時はタンパク変性防止のため、ぬるま湯で解凍しましょう。

初乳給与のポイント

・品質（免疫グロブリン含量 50g/L 以上）の良いもの

判断の目安
・Brix 値 22 以上
（屈折糖度計）
・比重 1.047 以上
（比重計、乳温 40℃）

・生後 24 時間以内に 6L 程度
・子牛が飲めるだけ飲ませる

2 発酵乳を活用しよう

移行乳などは発酵乳にすることで、夏は半月、冬はひと月の常温保存が可能になります。

発酵乳を作る時は、次の点に注意しましょう。

・生乳は抗生物質が残っていると発酵しづらく、血乳が多い場合は腐敗の恐れがあります。

・発酵完了まで継ぎ足しは可能ですが、継ぎ足し量が多くなると不良発酵の原因となります。

・給与時はそのまま構いませんが、給与しづらい場合は発酵乳 2〜3 に対し、お湯 1 の割合で薄めます。

発酵乳の作り方



＜用意する物＞

・消毒済みのプラスチック製フタ付きバケツ

・きれいなかくはん棒

・生乳

・乳酸菌または無糖ヨーグルト

＜作り方＞

バケツに生乳と乳酸菌または無糖ヨーグルトを入れ、20℃ 位の直射日光が当たらない場所で保管

1 日 1〜2 回攪拌する。

ヨーグルト状になれば出来上がり

3 ほ乳器具は清潔に

ほ乳瓶やほ乳バケツは使用後すぐに洗浄し、適切に保管しましょう。

ほ乳器具の洗浄

① 使用後すぐにお湯ですすぐ

② アルカリ洗剤を溶かしたお湯に入れ、スポンジフラシで洗う。

③ お湯を流しながらよくすすぐ

④ ほ乳瓶を逆さまにして乾燥・保管

⑤ 使用直前に殺菌

3〜4 日に 1 度、③ 終了後、アルカリ洗剤と同様の方法で酸性洗剤で洗浄する。

・ほ乳バケツはニッフル部分を分解して洗浄しましょう。

・ほ乳瓶では角になっている所に留意しましょう。

4 何を観察すればいい？

ほ育牛はわずかな不調が命取りとなる事例も多く、あつという間に容態が変化します。日頃の観察で平時と不調時の見極めをしましょう。

日々のチェックポイント

① ふん（色、形状、臭い）

② 食欲（ミルクの飲み方、スターターの食い込み）

③ 耳（垂れ方、温度）、目（目やに、くぼみ）、鼻（温度、乾き）

④ 体温（39.5℃ 以上あるか）

⑤ 人が近づいた時の反応

また、全身症状がある場合はできるだけ早く往診依頼をしましょう。

全身症状の判断基準

① 体温

② 起立不能（起立時のふらつきも）

③ 指に吸い付くか（強さも）

④ 脱水の程度（顔つきが違ったり、眼球陥没が始まっています）

⑤ 口腔内の温度（冷たいとき）